

タイトル：女人道（女性の巡礼路）について

女人道は、且つて女性の巡礼者が高野山を一周するために使ったルートであり、高野山の聖なる高原地帯を囲む山々の中を巡る 16 キロの道です。女人道は、歴史的には高野山へのアクセスと高野山を周回するために使用されていた多くの歴史的な道と繋がっています。高野山の歴史をもっと身近に体験したいと望む観光者は、高野三山巡りや女人堂巡り、不動坂コースなどをはじめ、これらの道を組み合わせて歩いたり、1 コースごとに歩いたりすることもできます。

江戸時代（1603-1867）には、女人道は、高野山への参道の役割と同時に、紀伊半島を旅するための重要な道でもありました。女人堂として知られる小さな建物が女人道の沿道の 8 カ所にあり、集会所や宿泊所として使われていました。今日では、不動坂口女人堂の 1 カ所だけが修復され残っています。その他の場所には案内板が立てられており、女人道と高野山についてここでしか得られない情報が記されています。

女人道は、明治時代（1868-1912）になるまで永らく高野山に近づくための起点となっていました。女人道には、高野山の中の舗装道路と重なる部分もありますが、多くの部分は、森の中を歩ける山道のままに残されています。

老若男女問わず、宗教的な目的で女人道を使って参道をしたり、物資を運んだりしていました。しかし、この道が女人道と呼ばれたのには理由があります。宗教的な制約によって、明治時代になるまで女性が高野山の聖域に入ることは禁じられていたためです。明治以前には、多くの女性が信仰のため、女人道の沿道にある見晴らしの良い場所から谷間を見下ろし、高野山に居住し勉強をしている親族を「訪ねる」ためにこの道を歩きました。女人道からは今でも高野山の寺院と、転軸山、楊柳山、摩尼山を眺めることができます。

保護林や重要な史跡を歩いて風景を楽しむほかに、女人道では、日本の巡礼者たちや、旅人たち、僧侶たちが何世紀もの間、歩いてきたその足跡をたどるといふ他では得られない経験ができます。